

静岡西ロータリークラブ会報

◎ 会長 斯波幹和
◎ 副会長 野木秀明
◎ 幹事 宮原伊之人
◎ 副幹事 富田英児

例会日：毎週水曜日 12:30
(但し第一水曜日 18:30)
例会場：ホテルグランヒルズ静岡
Tel 054-284-0111

クラブ事務所
静岡市葵区追手町 12-12
静岡安藤ハザマビル 5階
Tel:054-254-5611/Fax:054-221-0515

第2152回 2021年7月14日(水) 通常例会

- ◎司会者 幹事 宮原伊之人君
◎開会点鐘 会長 斯波幹和君
◎ロータリーソング 「君が代」 「奉仕の理想」
ソングリーダー 渡辺憲治君
◎四つのテスト唱和 渡辺憲治君



出席状況	会員数	出席計算 会員数	出席数	欠席数 (無届)	Make up	改定出席率
前々回	31名	29名	20名	0名	0名	68.97%
本日	30名		26名	4名		

◎会長挨拶 会長 斯波幹和君

みなさんこんにちは。

今日から本格的に2021年度の会長として挨拶をスタートします。毎回皆さんが「笑顔」になるようなお話をしていきたいと考えています。

ロータリアンとしての心構えや取り組む姿勢についてももちろんですが、会長挨拶の一年間のテーマとして、「静岡県スポーツ囁(話)」を設定しました。

何故スポーツなのか？それはもちろん今年がオリンピックyearであり、世界中の注目が日本と開催地の1つである静岡県に集まっているというのは大きな要因です。そしてまだ予断を許さない新型コロナウイルス感染症対策の免疫力向上のためにもスポーツは重要な要素です。しかし1番は、自分がスポーツ観戦も、参加することも好きだからということ、何よりもあらゆる人をポジティブ、笑顔にしてくれるからです。スポーツは、オーディエンスには感動、高揚感、一体感を、プレーヤーには、スポーツからしか得られない夢中そして楽しみを与えてくれます。来年の6月には皆さんが「静岡県スポーツ博士」になっているよう正々堂々、一所懸命に取り組むことをここに宣誓します。

第一弾は、ラグビーチーム「静岡ブルーレヴズ」についてお話しします。

聞きなれない名前かもしれませんが、みなさんご存知のヤマハ発動機ジュビロが、2022年1月スタート予定の新リーグ参加からリニューアルした名前です。「レヴズ」の由来は『Revs your Heart』、情熱を呼び起こすという言葉から、チームカラーはジュビロから引継いだ青が基調となっています。今までラグビーチームのジュビロと言えば「磐田」でしたが、試合をする拠点は県西部でも、チームの活動拠点は静岡県全域であるという気持ちが込められ、「静岡ブルーレヴズ」という名前になっています。

元日本代表の五郎丸歩氏がクラブ・リレーションズ・オフィサーに就任し、「海外に行って、日本との差を感じていました。ヤマハは今回、いち早く新たな会社を作って、ラグビー界に新しい風を吹かせようとしている。だったらそこに自分の人生も乗せて、新しい風をもっと強く吹かせてみたいなと思いました」と力強く語っています。

来年の1月には、こんな熱いチームが、ラグビー、プロリーグでの戦いをスタートさせます。ラグビーワールドカップで静岡県だけではなく日本中が沸きました。またあのワクワク感に出会えるかと思うと非常に楽しみです。今後どのようなかたちで、静岡に根付いていくか、興味深々です。



◎本日のお客様紹介

2021～2022年度 2620地区

ガバナー	小林聡一郎様 (甲府北 R C)
ガバナー補佐	八木伸廣様 (清水北 R C)
地区幹事	中尾 均様 (甲府北 R C)
ガバナー事務局長	望月重伸様 (清水北 R C)



◎贈呈授与

野木前幹事へのお礼贈呈



◎幹事報告

1. 例会後理事会開催の件
2. 熱海義援金報告 → 24,000円を熱海市へ
3. 次週は休例会

◎委員会報告

クラブ管理委員長 水元久美子君
8月の家族例会の件

◎「ロータリーの友」紹介 小宮山公文君



◎会員のお祝い

お誕生日お祝い 桐林典代君



◎出席報告・スマイル発表 中山剛志君

斯波幹和君

小林ガバナー、中尾地区幹事、本日は宜しくお祝い致します。
八木ガバナー補佐、望月事務局長、二週連続ご苦労様です。
桐林さん、お誕生日おめでとうございます。

袴田文治君・榊 一夫君・渡辺憲治君・富田英児君

小林聡一郎ガバナー、お暑いところおいで下さりありがとうございます。
宜しくご指導ご教授のほどを。

満井義政君・野木秀明君・白鳥三和子君

小林ガバナー、斯波会長、今年度のご指導宜しくお祝いします。
楽しい例会になりますように。

桐林典代君

お誕生日のお祝いありがとうございます。今年で55歳になります。



◎外部卓話

2021～2022年度 2620地区ガバナー

甲府北RC 小林聰一郎様

共存の中こそ自分を生かす道がある

私たちはクラブをかけがいのない場と思い、例会を友愛や学びの場として尊く思ってきました。そして互いを思いやりながら、その心を地域や世界に向けて視野を広げ、活動を広げてきました。日本的な感性でそのようなロータリーを形成し発展させてきたのだと思いますが、日本という風土に見事に適合したロータリーだと思っています。

一方世界的には、奉仕活動を主体にロータリーを考える傾向にあり、ロータリー財団のポリオ根絶を始めとする取り組みのように、より多くの会員でより大きな奉仕活動を目指すことになります。実際世界では、それだけ多くのニーズが存在し、ロータリアンの支援を必要としていることも現実です。

ロータリーには最高絶対の単一概念が存在しません。常に「奉仕と親睦」「利己と利他」のように相対的に考えることを要求されますので、一つに決めつけるのではなく、日本的感性のロータリーと奉仕活動の世界のロータリーとを、どのように考えるのかということになります。

でもこれは今の私たちにとっては、相反することではありません。どちらか一方のロータリーしかないのではなく、その両方のバランスを上手にとりながらクラブに軸足を置いて、地域や世界で奉仕活動をしているという姿ではないでしょうか。当然クラブや例会を自己研鑽の機会と捉えてもいるでしょうし、人格形成の場ともしているでしょう。そしてそういう自分を他者のために活かすことも大きな使命と思っているのだと思います。一人では生きられない共存の中こそ自分を生かす道があるということだと思っています。

R I 会長テーマ「SERVE TO CHANGE LIVES」

今年度のシェカール・メータ R I 会長はテーマに「SERVE TO CHANGE LIVES 奉仕しよう—みんなの人生を豊かにするために」を掲げられました。そしてキーワードは「GROW MORE DO MORE」で、若い世代と女性をロータリーに迎え入れて会員基盤を強くし、人々の人生が豊かになるよう奉仕活動をしましょう、と要請されました。世界的なニーズに応えるロータリーの傾向に合致した年度テーマだと思っています。

地区においてクラブにおいてこの要請をどのように具現化するのかということで、会員基盤の強化については私なりの取組方策を提示させていただき、ロータリー奉仕デーについては各クラブに計画・実施していただくことにしております。会長始め会員皆さまのご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

Onlineで新たなつながりを

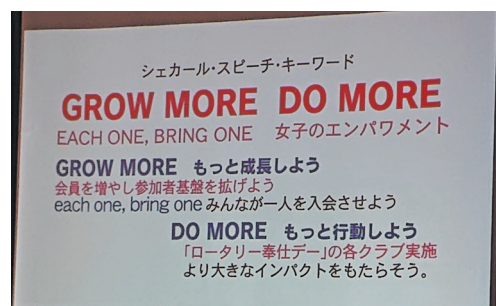
ワクチン接種が進んでいるとはいえコロナ禍で視界不良のクラブ運営になりますのでご苦労されると思いますが、クラブに軸足を置いた例会と奉仕活動のバランスを上手にとり、会員相互の連携を強め、地域や世界で奉仕活動をしてくださるようお願いいたします。

コロナ禍を経験した私たちは、onlineでの新たな繋がり方を手に入れました。online開催の地区 R L I は何回もの実績を礎として、全国的にもトップクラスと高評価されていますし、各クラブにおいてもハイブリット例会やonline例会なども行われています。窮屈で不自由なコロナ禍でも人と人との繋がりには有効な方法ですので活用いただきたいと思っています。

ロータリー未来形成 (Shaping Rotary's Future)

今年初めに R I は「未来形成 (SRF)」という新たなプラン概要を提示しました。主には2030年から始める管理方法改革のためのプランで、2022年4月の規定審議会での審議対象になると言われています。現在分っているのはここまでで、これから提示に対しての意見を取り入れながら形成されていくことです。具体的にどのようなものになるのかは現状でははっきりしません。しかしこのようなロータリーの未来に向けての取り組みが始まっていることだけのご承知置きたいと思っています。今年度これがどのように動き、地区としてどのように対処していくのかも手探り状態ですが、将来の地区にとって不利にならないような検討だけはしていかなければならないと思っています。

クラブ会長、幹事を始め、会員の皆さまと一緒に、本年度の第2620地区が「GROW MORE DO MORE」出来ますよう、ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。



◎閉会の点鐘

斯波幹和君